

第 1 . 人 口 動 態

1 人口動態調査について

人口動態調査は、国勢調査と並ぶ主要な統計であり、統計法に基づく指定統計である。

調査は人口動態調査令及び施行細則の規定により行っているが、戸籍法による出生、死亡、婚姻及び離婚の届出、死産の届出に関する規程による届出から、市町村において1件ごとに調査票を作成し保健所、県を經由し厚生労働省大臣官房統計情報部において収集・集計される。さらに千葉県において県分の結果表を作成する。

なお、調査票の分類は、出生・死亡・死産は住所地で、婚姻は夫の住所地、離婚は別居する前の住所地で行っている。

結果表における用語の説明及び比率の算出は次のとおりである。

早期新生児死亡 生後1週未満の死亡
新生児死亡 生後4週未満の死亡
乳児死亡 生後1年未満の死亡
周産期死亡 妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡
年間の事件数

$$\text{出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\text{年間の事件数}}{\text{人口}} \times 1,000$$
$$\text{死産率} = \frac{\text{年間の出産数(出生数+死産数)}}{\text{年間の事件数}} \times 1,000$$
$$\text{周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率} = \frac{\text{年間の出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}}{\text{年間の事件数}} \times 1,000$$
$$\text{乳児死亡・新生児死亡率・早期新生児死亡率} = \frac{\text{年間の出生数}}{\text{年間の出生数}} \times 1,000$$
$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{年間の死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

母の年齢別出生数

$$\text{合計特殊出生率} = \frac{\text{15歳から49歳までの合計}}{\text{年齢別女子人口}}$$

率の算出 県全体の率は、厚生労働省大臣官房統計情報部の公表数値とした。
市町村等の率は、平成12年国勢調査の総人口に基づき算出した。

2 概 要

(1) 出 生

出生率の推移は図1のとおり昭和22年~24年の第1次ベビーブームをピークとして以後下降線をたどりつづけ、昭和36年を底としたが、その後は徐々に上昇を続け、昭和46年~48年には戦後第2のベビーブームとなった。

しかしながら昭和49年以降、出生数は減少傾向にあり、昭和55年以降の出生率は、ひのえうまの昭和41年の14.1の値をも下回っている。平成3年からは増減を繰り返しており、平成15年は8.9となった。

また、1人の女性が一生の間に生む平均子ども数をあらわす合計特殊出生率は、昭和51年に2.0を下回ってから一時的な上昇はあるものの低下を続け、平成15年は1.20となった。(図2)

これらの傾向は、ほぼ全国的な傾向と一致しており、首都圏に人口の集中が始まる昭和30年代後半から、本県の出生率及び合計特殊出生率は全国を上回っていたが、昭和60年以降は表1のとおり全国より低い率又は同率となっている。

また、出生順位別の出生割合の年次推移を表2でみると、第3子以上の割合は、昭和63年の17.2%をピークに減少に転じ、平成15年は12.3%となっている。

表3の母の年齢階級別出生率をみると、34~44歳台で増加しているものの、20~29歳台で大幅に減少している。

表4及び図3は保健所別の出生率である。

図1 出生率の年次別推移(人口千対)

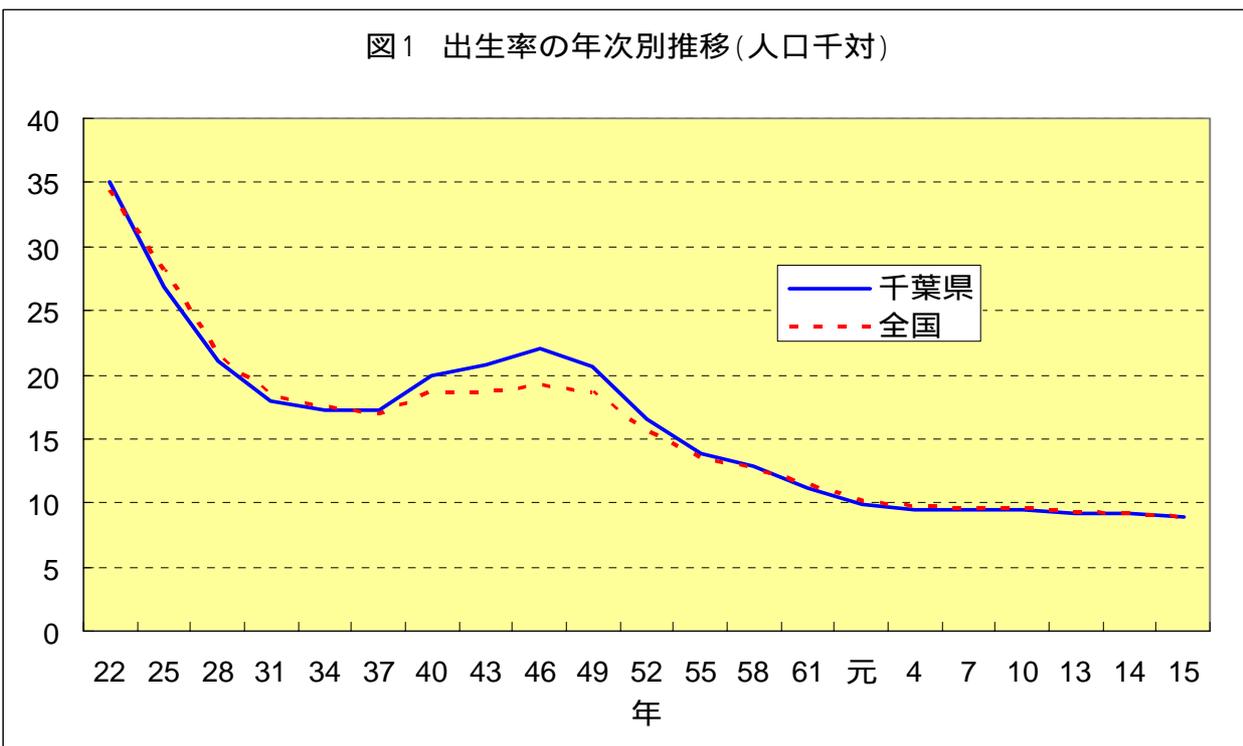


図2 合計特殊出生率の年次別推移

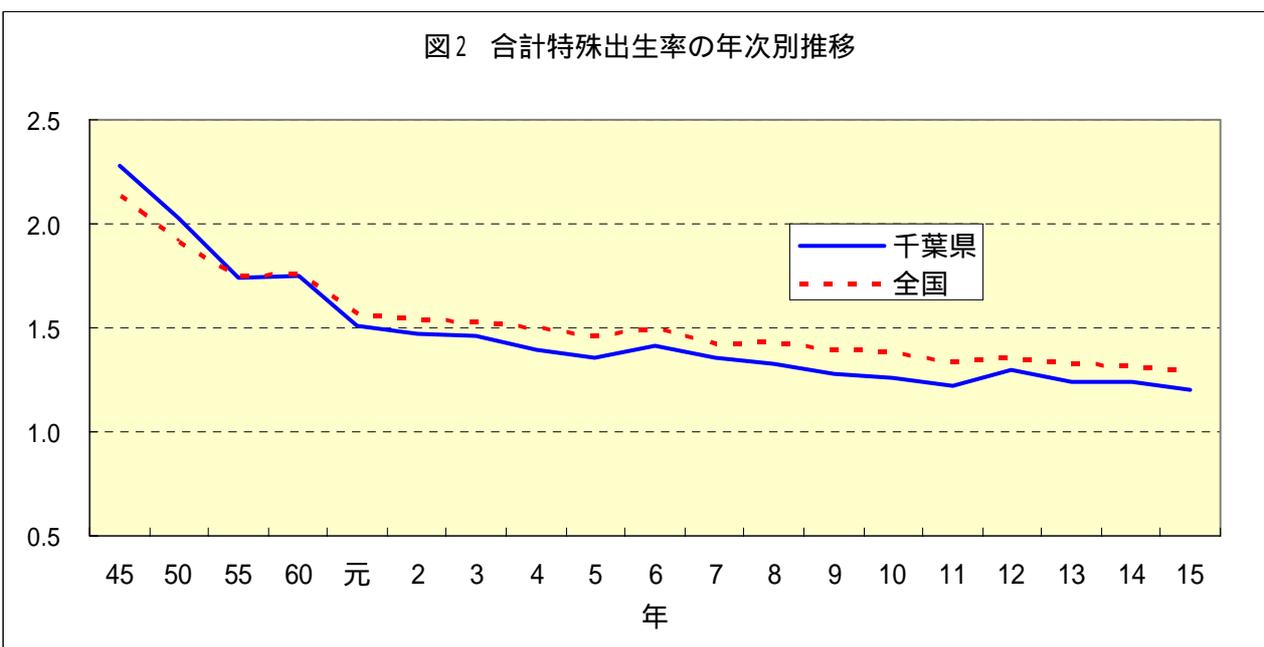


表1 出生数・出生率・合計特殊出生率の年次推移

年次	出生数		出生率(人口千対)		合計特殊出生率	
	全国	千葉県	全国	千葉県	全国	千葉県
昭和40年	1,823,697	54,170	18.6	20.0	2.14	2.31
45	1,934,239	72,481	18.8	21.6	2.13	2.28
50	1,901,440	77,416	17.1	18.7	1.91	2.03
55	1,576,889	65,554	13.6	13.9	1.75	1.74
56	1,529,455	66,753	13.0	13.8	1.74	1.79
57	1,515,392	65,492	12.8	13.3	1.77	1.80
58	1,508,687	64,288	12.7	12.9	1.80	1.82
59	1,489,780	63,570	12.5	12.6	1.81	1.84
60	1,431,577	60,719	11.9	11.7	1.76	1.75
61	1,382,946	57,783	11.4	11.1	1.72	1.67
62	1,346,658	57,256	11.1	10.8	1.69	1.65
63	1,314,006	56,462	10.8	10.5	1.66	1.61
平成元年	1,246,802	54,086	10.2	9.9	1.57	1.51
2	1,221,585	53,356	10.0	9.7	1.54	1.47
3	1,223,245	54,187	9.9	9.7	1.53	1.46
4	1,208,989	53,128	9.8	9.4	1.50	1.39
5	1,188,282	53,352	9.6	9.4	1.46	1.36
6	1,238,328	56,667	10.0	9.9	1.50	1.41
7	1,187,064	54,388	9.6	9.5	1.42	1.36
8	1,206,555	55,415	9.7	9.6	1.43	1.33
9	1,191,665	54,574	9.5	9.4	1.39	1.28
10	1,203,147	54,961	9.6	9.4	1.38	1.26
11	1,177,669	54,005	9.4	9.2	1.34	1.22
12	1,190,547	55,318	9.5	9.4	1.36	1.30
13	1,170,662	54,511	9.3	9.2	1.33	1.24
14	1,153,855	54,607	9.2	9.2	1.32	1.24
15	1,123,610	52,789	8.9	8.9	1.29	1.20

表2 出生順位別の出生数割合(百分率)の年次推移

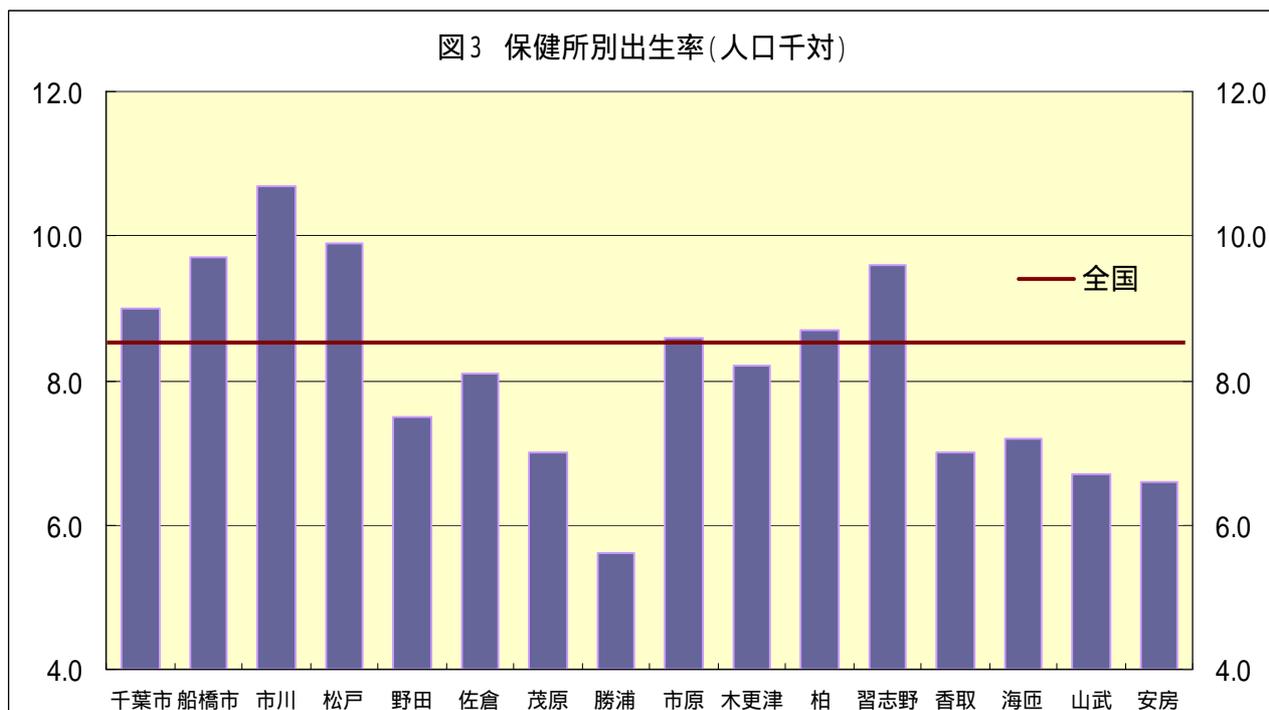
年次	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子以上
昭和40年	47.1	38.1	10.9	2.6	1.3
45	45.5	40.4	11.6	1.8	0.7
50	45.7	41.8	10.5	1.5	0.5
55	43.2	42.6	12.3	1.4	0.5
56	43.6	41.7	12.7	1.5	0.5
57	43.4	41.2	13.2	1.7	0.5
58	43.2	41.3	13.3	1.7	0.5
59	43.3	40.8	13.6	1.8	0.5
60	42.1	41.3	14.3	1.8	0.5
61	42.8	40.4	14.3	1.9	0.6
62	43.2	40.0	14.4	1.9	0.5
63	43.2	39.6	14.6	2.1	0.5
平成元年	44.2	38.9	14.4	2.0	0.5
2	45.1	38.0	14.3	2.1	0.5
3	47.0	37.2	13.3	2.0	0.5
4	48.3	36.9	12.4	2.0	0.5
5	49.2	36.4	12.1	1.9	0.5
6	50.1	36.1	11.5	1.9	0.5
7	50.0	36.6	11.1	1.9	0.5
8	49.5	37.3	10.9	1.8	0.5
9	49.7	37.2	10.9	1.7	0.5
10	50.1	37.1	10.6	1.7	0.5
11	51.2	36.5	10.1	1.6	0.5
12	50.9	36.4	10.5	1.7	0.5
13	50.9	36.8	10.1	1.8	0.5
14	51.2	36.5	10.1	1.7	0.5
15	50.5	37.3	10.1	1.6	0.6

							(女子人口千対)	
年次 母の年齢	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成14年	平成15年
15～19歳	4.48	3.88	3.99	3.51	3.14	5.21	6.11	5.87
20～24歳	110.86	74.68	59.13	40.69	35.33	32.98	33.53	31.85
25～29歳	193.69	176.40	174.21	128.11	103.45	88.56	78.88	75.09
30～34歳	74.76	75.75	89.35	93.66	93.33	91.09	85.18	82.47
35～39歳	17.16	13.72	18.79	22.13	27.36	32.78	34.11	34.24
40～44歳	2.50	1.77	1.86	2.39	2.90	3.96	4.51	4.68
45～49歳	0.05	0.04	0.06	0.04	0.08	0.11	0.12	0.12
50～54歳	0.01	-	-	-	-	-	-	-

※率算出に用いた年齢別人口は、平成15年4月1日現在「千葉県年齢別人口」である。

保健所	55年	60年	2年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
総 数	13.8	11.8	9.6	9.4	9.5	9.3	9.4	9.2	9.4	9.2	9.2	9.2
千葉市	14.3	12.0	9.5	9.4	9.8	9.4	9.7	9.5	9.6	9.4	9.5	9.0
船橋市												9.7
市川	16.8	14.3	12.0	11.1	11.2	10.9	10.8	10.7	11.1	11.1	10.9	10.7
松戸	17.0	13.9	11.1	10.8	11.1	10.6	10.5	10.6	10.7	10.6	10.1	9.9
野田	12.6	10.3	8.1	8.2	8.4	8.1	8.0	7.7	7.7	8.2	7.4	7.5
佐倉	13.2	10.9	9.1	8.7	9.1	8.8	8.5	8.5	8.5	8.3	8.4	8.1
佐原	12.4	11.1	8.4	8.2	7.9	*	*	*	*	*	*	*
銚子	12.0	11.7	9.7	8.9	8.6	*	*	*	*	*	*	*
八日市場	11.2	11.6	9.2	8.5	8.4	*	*	*	*	*	*	*
東金	10.4	11.1	9.0	9.3	8.7	*	*	*	*	*	*	*
茂原	10.1	10.2	8.5	8.6	8.6	8.3	8.1	7.8	7.8	7.6	7.7	7.0
勝浦	9.6	9.5	7.5	6.7	7.2	6.5	6.7	6.9	6.8	6.2	5.9	5.6
市原	14.3	12.6	10.2	9.6	9.5	9.60	9.2	8.9	9.4	8.9	8.9	8.6
木更津	12.9	11.6	9.7	9.1	9.1	8.9	8.9	8.5	9.1	8.6	8.5	8.2
館山	10.7	8.9	7.6	7.4	7.4	*	*	*	*	*	*	*
鴨川	9.5	10.2	8.4	7.9	7.4	*	*	*	*	*	*	*
船橋	14.2	11.3	9.1	9.6	9.9	9.9	9.8	9.6	10.1	9.8	9.8	*
松尾	11.1	11.4	8.7	9.0	9.0	*	*	*	*	*	*	*
柏	13.6	11.0	8.9	9.0	8.9	9.1	9.3	9.0	9.0	8.9	8.9	8.7
習志野	14.5	11.6	9.8	9.7	9.7	9.7	10.4	10.0	10.2	10.2	10.4	9.6
香取	*	*	*	*	*	8.10	7.7	7.5	7.5	7.3	7.1	7.0
海匝	*	*	*	*	*	8.3	8.3	7.6	8.1	8.0	8.0	7.2
山武	*	*	*	*	*	8.7	8.4	7.7	7.7	7.7	6.9	6.7
安房	*	*	*	*	*	7.1	7.1	7.1	6.9	6.6	7.4	6.6
全 国	13.6	11.9	10.0	9.6	9.7	9.5	9.6	9.4	9.5	9.3	9.2	8.9

図3 保健所別出生率(人口千対)



(2) 死 亡

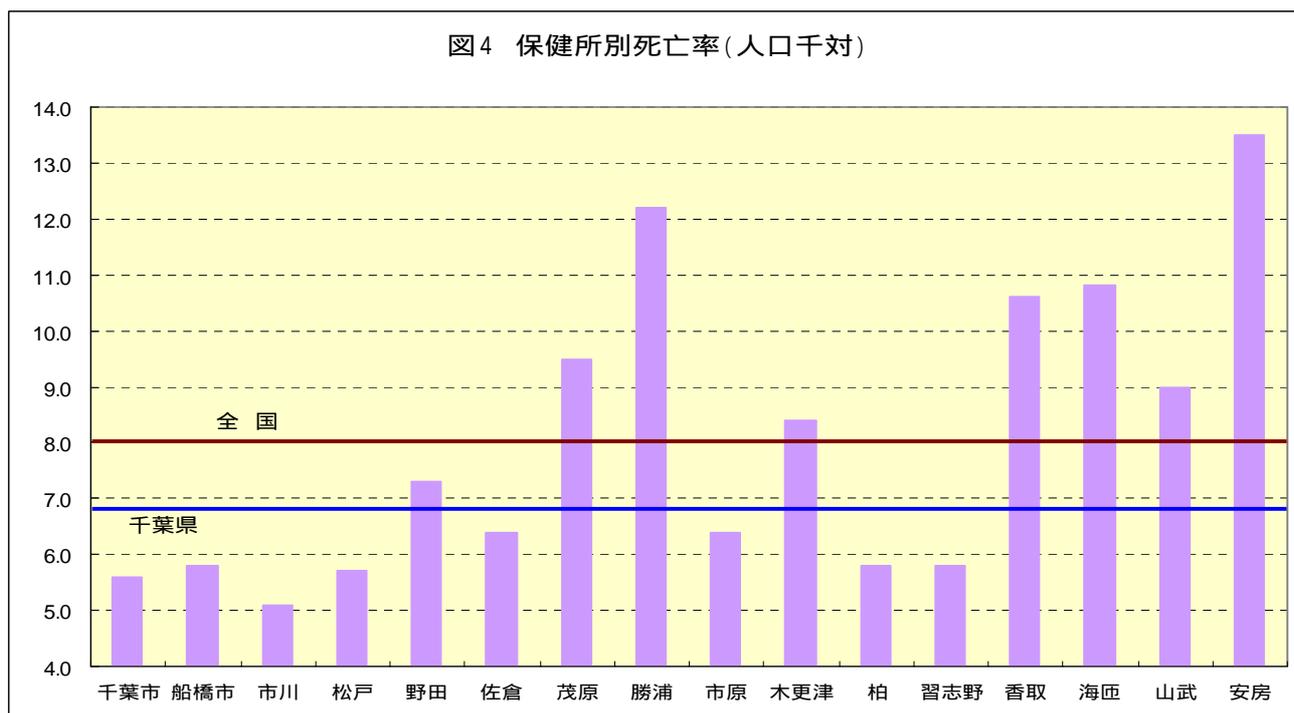
平成 15 年の死亡数は 40,579 人で、昨年 39,748 人より 831 人増化し、死亡率は 6.8 で、前年の 6.7 を上回った。表 5 は保健所別の死亡率の年次推移である。

千葉県の死亡率は、昭和 40 年までは全国の死亡率を上回っていたが、昭和 40 年代前半に全国の死亡率を下回るようになり、平成 15 年は全国の 8.0 より 1.2 下回っており、全国第 4 位の低率県となっている。

死因順位は表 6 のとおり悪性新生物が第 1 位、第 2 位が心疾患、第 3 位が脳血管疾患で、昨年と同様の順位となっている。

なお、これら三大成人病による死亡数は、15 年は 24,579 人となり、表 7 のとおり全死亡の 60.6% を占めている。

図4 保健所別死亡率(人口千対)



保健所	55年	60年	2年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
総 数	4.9	4.8	5.2	6.0	5.9	6.0	6.2	6.5	6.3	6.4	6.7	6.8
千葉市	3.6	3.8	4.1	5.1	5.0	5.2	5.3	5.5	5.4	5.5	5.9	5.6
船橋市												5.8
市 川	3.8	3.8	3.8	4.7	4.5	4.4	4.8	4.9	4.7	4.6	4.9	5.1
松 戸	3.2	3.6	4.0	4.5	4.8	5.0	5.1	5.3	5.1	5.4	5.7	5.7
野 田	5.5	4.7	5.7	6.0	6.1	6.1	6.5	7.0	6.8	6.6	7.1	7.3
佐 倉	5.1	4.9	5.1	5.2	5.3	5.2	5.7	5.8	5.7	5.9	6.0	6.4
佐 原	7.4	8.2	8.3	9.6	9.2
銚 子	8.1	7.8	8.5	9.9	9.5
八日市場	9.5	8.3	9.7	10.6	10.1
東 金	8.4	8.1	8.2	7.7	7.5
茂 原	7.5	7.3	7.7	8.3	7.6	8.2	8.2	8.7	8.4	8.6	8.8	9.5
勝 浦	10.9	9.4	10.1	11.8	10.4	10.8	12.0	12.8	11.3	10.9	12.8	12.2
市 原	4.7	4.6	5.2	5.6	5.5	5.70	6.0	6.2	6.1	6.5	6.6	6.4
木更津	6.2	6.1	6.4	7.3	7.4	7.3	7.4	7.8	7.6	7.7	7.9	8.4
館 山	9.3	9.6	10.1	11.9	11.5
鴨 川	9.4	9.4	9.9	11.2	10.9
船 橋	3.5	3.6	4.0	4.9	4.9	4.9	5.2	5.5	5.5	5.6	5.6	.
松 尾	8.4	9.0	9.1	9.3	8.7
柏	3.6	3.7	4.2	4.9	5.0	5.1	5.3	5.7	5.4	5.4	5.7	5.8
習志野	3.3	3.4	4.1	4.8	4.8	4.8	5.2	5.3	5.2	5.2	5.4	5.8
香 取	9.30	9.8	10.1	10.2	9.8	10.4	10.6
海 匝	10.4	10.3	11.2	10.4	10.2	10.5	10.8
山 武	8.2	8.3	9.0	8.5	9.0	9.1	9.0
安 房	11.1	11.9	12.1	12.5	12.3	12.8	13.5
全 国	6.2	6.3	6.7	7.1	7.4	7.2	7.3	7.5	7.8	7.7	7.7	8.0

死 因	(率は人口10万対)							
	平成15年度				平成14年度			
	総 数		男		女		総 数	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	
全 死 因	40,579	681.4	22,783	382.6	17,796	298.8	39,748	662.4
1 悪性新生物	12,476	209.5	7,751	130.2	4,725	79.3	12,503	208.3
2 心 疾 患	6,776	113.8	3,517	59.1	3,259	54.7	6,530	108.8
3 脳血管疾患	5,327	89.5	2,656	44.6	2,671	44.9	5,216	86.9
4 肺 炎	3,690	62.0	2,010	33.8	1,680	28.2	3,489	58.1
5 不慮の事故	1,413	23.7	945	15.9	468	7.9	1,488	24.8
6 自 殺	1,326	22.3	970	16.3	356	6.0	1,212	20.2
7 老 衰	1,060	17.8	314	5.3	746	12.5	1,069	17.8
8 腎 不 全	683	11.5	334	5.6	349	5.9	665	11.1
9 肝 疾 患	657	11.0	459	7.7	198	3.3	604	10.1
10 糖 尿 病	638	10.7	348	5.8	290	4.9	550	9.2

図5 主な死因の年次推移(人口10万対)

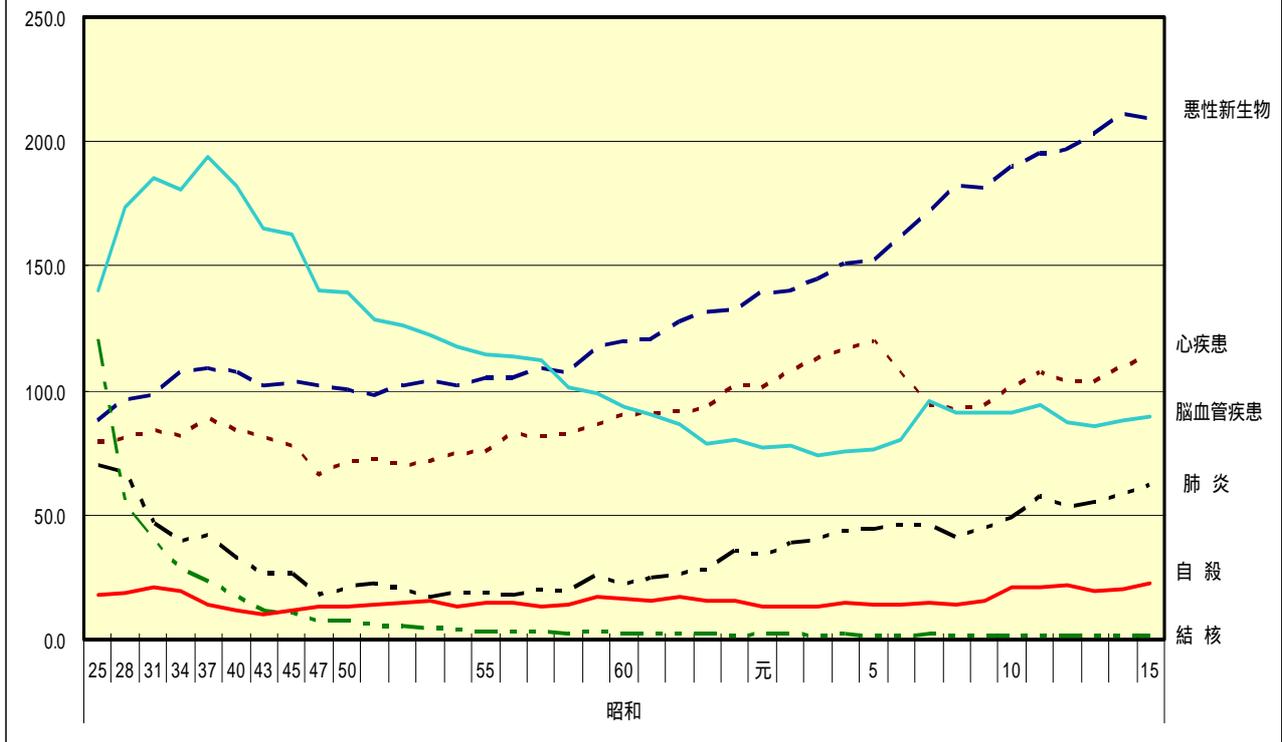
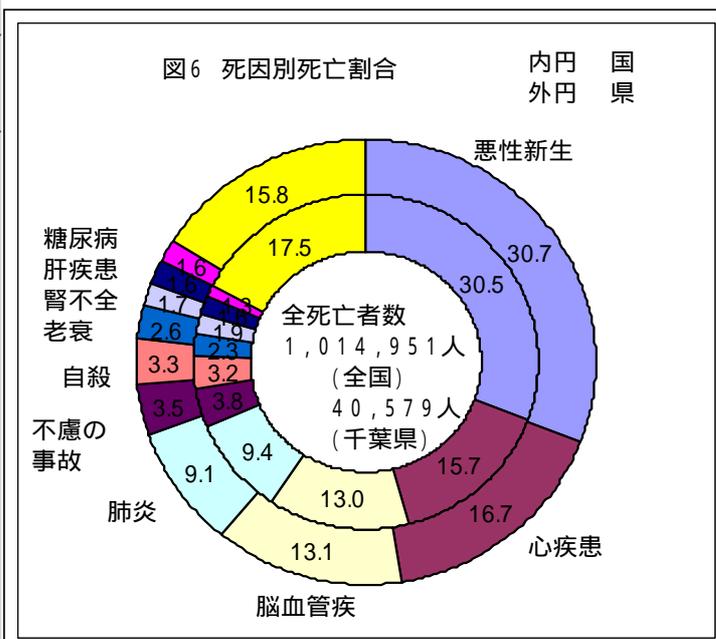


表7 主要死因別死亡数及び死亡率

年齢階級	総数	0～19歳	20～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
全死亡	人 40,579	人 379	人 400	人 279	人 368	人 503	人 721
三大成人病	24,579	61	69	94	138	266	436
内訳	悪性新生物	12,476	25	30	50	82	144
	心疾患	6,776	33	30	29	36	68
	脳血管疾患	5,327	3	9	15	20	54
全死亡に占める割合	% 60.6	% 16.1	% 17.3	% 33.7	% 37.5	% 52.9	% 60.5

50～54歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
人 1,500	人 2,317	人 2,886	人 3,788	人 4,757	人 5,720	人 5,736	人 5,730	人 5,495
995	1,575	2,052	2,646	3,251	3,704	3,456	3,189	2,647
642	1,019	1,351	1,743	1,996	1,966	1,448	1,090	617
201	319	420	518	680	986	1,062	1,161	1,151
152	237	281	385	575	752	946	938	879
% 66.3	% 68.0	% 71.1	% 69.9	% 68.3	% 64.8	% 60.3	% 55.7	% 48.2

	悪性新生物 死亡数	悪性新生物 死亡率 人口10万対	全死亡に対する 悪性新生物死亡 の割合(%)
昭和40年	2,900	107.3	14.7
45	3,283	97.5	15.6
50	4,063	97.9	18.7
55	4,974	105.0	21.7
60	6,216	120.7	25.0
平成元年	7,641	139.2	27.8
2	7,791	140.2	27.0
3	8,136	144.6	27.4
4	8,617	151.4	27.5
5	8,722	151.7	27.3
6	9,362	161.7	28.6
7	9,977	172.1	29.1
8	10,635	182.5	31.3
9	10,605	181.1	30.6
10	11,187	191.8	30.7
11	11,461	195.5	29.9
12	11,552	196.8	31.0
13	12,016	203.4	31.8
14	12,503	210.9	31.5
15	12,476	209.5	30.7



発生部位	55年	60年	2年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
胃	33.4	28.2	23.5	20.7	20.4	19.7	18.8	18.4	18.3	17.6	17.5	16.5
気管・気管支及び肺	12.1	12.9	15.1	15.3	16.4	16.2	16.5	17.2	17.1	16.9	17.6	17.2
乳房	3.1	2.9	3.1	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.7	3.8	3.8	3.6
子宮	2.9	2.8	2.4	1.8	1.9	1.8	1.9	1.9	2.0	2.1	2.0	1.9
白血病	3.5	3.4	2.5	2.3	2.3	2.0	2.5	2.2	2.1	2.2	2.0	1.9
食道	3.7	3.4	3.9	3.6	3.3	4.3	3.7	4.0	3.7	4.0	4.2	4.2
肝	7.1	9.1	10.8	11.3	11.3	11.1	10.8	10.7	10.1	10.7	10.7	10.5
膵	4.4	5.3	5.7	6.1	5.7	6.0	5.8	6.1	6.4	6.2	5.8	6.4
直腸S状結腸移行部	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.9	4.3	4.5	4.6	4.4	4.3	4.7
その他	25.5	27.8	28.8	31.3	30.9	30.6	32.1	31.5	32.0	32.1	32.1	33.1

(3) 乳児死亡

生後1年未満の死亡を乳児死亡といい、通常、出生千に対する乳児死亡率で観察するが、特にこれを取りあげて観察の対象とするのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるためである。

平成15年の乳児死亡率は2.9で、前年の2.8を上回った。

表10は保健所別の乳児死亡率の推移であり、表11は年次別乳児死因簡単分類死亡率である。

表10 年次別保健所別乳児死亡率（出生千対）

保健所	55年	60年	2年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
総数	7.2	4.8	4.2	3.6	3.3	3.7	3.6	3.0	3.2	3.0	2.8	2.9
千葉市	7.1	3.7	2.9	4.2	3.2	3.5	4.0	2.6	3.5	2.7	2.4	2.1
船橋市												4.2
市川	7.3	4.1	2.7	3.7	2.1	3.1	4.4	3.1	3.7	2.1	3.5	1.1
松戸	5.6	3.9	3.6	3.0	2.2	2.7	3.9	2.4	3.8	3.9	3.4	3.2
野田	8.5	5.9	6.8	3.2	3.9	3.2	3.3	5.1	3.4	3.2	1.8	2.7
佐倉	8.4	4.4	6.0	4.7	3.7	3.4	3.1	3.5	4.9	2.4	4.2	3.6
佐原	7.9	4.0	4.4	3.5	4.5	・	・	・	・	・	・	・
銚子	10.9	8.7	6.3	5.4	1.6	・	・	・	・	・	・	・
八日市場	8.0	7.5	8.1	8.6	5.8	・	・	・	・	・	・	・
東金	6.3	3.1	4.5	3.7	2.9	・	・	・	・	・	・	・
茂原	3.8	5.7	4.8	2.9	3.7	-	5.4	3.2	1.6	4.9	3.2	5.3
勝浦	10.4	3.5	7.4	3.4	6.3	1.8	1.7	8.4	1.7	-	-	-
市原	7.8	4.7	4.2	3.7	5.3	3.40	3.9	4.4	3.1	4.8	3.2	4.1
木更津	7.7	4.8	6.7	4.4	4.4	5.1	5.1	3.6	1.7	1.1	1.1	1.1
館山	9.8	4.6	4.5	1.2	4.8	・	・	・	・	・	・	・
鴨川	15.4	7.2	-	-	-	・	・	・	・	・	・	・
船橋	6.6	6.3	4.2	3.2	3.0	3.6	3.3	2.7	2.4	3.0	2.2	・
松尾	6.9	5.1	6.2	1.4	4.0	・	・	・	・	・	・	・
柏	6.3	5.1	3.0	2.3	3.2	4.8	2.9	3.3	3.2	2.9	1.4	3.7
習志野	6.9	5.3	4.8	3.4	3.3	3.0	1.5	1.2	2.7	2.1	3.2	2.6
香取	・	・	・	・	・	8.20	4.0	4.0	4.1	1.7	3.5	4.5
海匝	・	・	・	・	・	3.6	4.2	2.6	3.2	5.7	5.7	3.6
山武	・	・	・	・	・	6.2	3.4	1.9	1.2	5.5	2.7	2.8
安房	・	・	・	・	・	7.5	2.8	1.0	1.0	4.2	2.8	5.3
全国	7.5	5.5	4.6	4.3	3.8	3.7	3.6	3.4	3.2	3.1	3.0	3.0

表11 年次別乳児死因簡単分類死亡率（出生1万対）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
昭和55年	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 21.2	先天性異常 17.8	詳細不明の未熟児 5.5	肺炎及び気管支炎 4.9	不慮の事故及び有害作用 3.2
60	先天性異常 16.0	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 12.8	肺炎及び気管支炎 2.3	詳細不明の未熟児 2.0	不慮の事故及び有害作用
平成2年	先天性異常 16.2	出産時外傷、低酸素症、分娩仮死及びその他の呼吸器病態 6.2	肺炎及び気管支炎 2.1	不慮の事故及び有害作用 1.9	心疾患 1.5
7	先天奇形、変形・染色体異常 15.6	乳幼児突然死症候群 5.7	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.2	不慮の事故 1.7	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 1.3
8	先天奇形、変形・染色体異常 13.9	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.3	乳幼児突然死症候群 3.6	肺炎 1.6	不慮の事故
9	先天奇形、変形・染色体異常 13.7	乳幼児突然死症候群 4.4	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.2	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 2.4	周産期に特異的な感染症 心疾患 1.5
10	先天奇形、変形・染色体異常 11.6	乳幼児突然死症候群 3.6	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 2.4	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 2.0	不慮の事故 1.8
11	先天奇形、変形・染色体異常 12.0	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.3	乳幼児突然死症候群 2.2	不慮の事故	敗血症 1.1
12	先天奇形、変形・染色体異常 11.8	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 6.0	不慮の事故 1.8	心疾患 1.4	乳幼児突然死症候群
13	先天奇形、変形・染色体異常 8.9	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 5.0	乳幼児突然死症候群 2.8	不慮の事故 1.8	心疾患 1.5
14	先天奇形、変形・染色体異常 11.2	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.4	乳幼児突然死症候群 2.2	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 1.6	不慮の事故 1.5
15	先天奇形、変形・染色体異常 11.0	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 4.4	心疾患 1.3	乳幼児突然死症候群	敗血症 0.9

6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
心疾患 1.7	敗血症（新生児敗血症を含む） 1.4	髄膜炎 1.1	胃腸炎 悪性新生物 0.8	
敗血症（新生児敗血症を含む） 1.8	髄膜炎 心疾患 0.7		新生児の出血及び 新生児出血性疾患 その他の外因 0.5	
敗血症（新生児敗血症を含む） 1.8	髄膜炎 詳細不明の未熟児 その他の外因 0.4			悪性新生物 腹膜ヘルニア及び腸閉塞 新生児出血性疾患 0.2
敗血症 心疾患 1.1		肺炎 0.7	代謝障害 周産期に特異的な感 染症 0.6	
胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 0.9	心疾患 0.7	周産期に特異的な感 染症 0.5	代謝障害 0.4	
	脳血管疾患 不慮の事故 1.1		敗血症 0.9	肺炎 0.5
心疾患 出生時仮死 1.8		新生児の細菌性敗血症 1.1	敗血症 その他の周産期に発生した病態 0.9	
髄膜炎 心疾患 周産期に特異的な感 染症 0.7			肺炎 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 0.6	
敗血症 0.9	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 0.5	悪性新生物 髄膜炎、肺炎 周産期に特異的な感 染症 0.4		
胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 0.7	腸管感染症 脳血管疾患 胎児発育に関連する障 害 肺炎 0.6			
心疾患 1.8	肺炎 0.4			
不慮の事故 0.8	肺炎 0.6			

(4) 死産

人口動態統計では「死産の届出に関する規程」により妊娠満12週(妊娠第4月)以後の死児の出産を死産として扱っている。

これらの年次別推移が表12である。

なお、死産率は出産(出生+死産)千に対する率で表される。

死産のうち人工的処置を加えたものは人工死産としているが、人工死産の妊娠期間別割合は表13のとおりである。

表12 死産率年次推移(出産千対)

	死産率	人工死産率	全死産に対する人工死産の構成比
昭和40年	66.5	19.1	0.287
45	51.0	12.5	0.246
50	41.9	8.6	0.206
55	38.4	8.4	0.220
60	38.1	14.7	0.386
平成2年	36.0	15.9	0.441
5	32.6	14.3	0.438
6	29.2	12.1	0.414
7	27.6	11.9	0.432
8	29.2	12.4	0.426
9	28.8	12.2	0.424
10	28.7	12.1	0.422
11	30.2	12.8	0.424
12	28.9	12.5	0.433
13	29.3	13.3	0.456
14	29.1	13.6	0.469
15	29.6	13.9	0.469

表13 人工死産の妊娠期間別割合年次推移(百分率)

	人工死産	第4月	第5月	第6月	第7月	第8月	第9月	第10月	第11月
昭和40年	100	9.3	28.2	34.2	20.5	3.6	1.4	2.8	-
45	100	15.9	36.5	29.8	15.3	1.2	0.4	0.9	-
50	100	20.7	35.6	30.6	11.5	0.9	0.3	0.4	-
	人工死産	12~15週	16~19週	20~23週	24~27週	28~31週	32~35週	36~39週	40週~
55	100	30.4	35.9	32.6	0.5	0.3	0.2	-	-
60	100	38.3	34.4	26.2	0.3	0.4	0.3	-	-
平成2年	100	37.8	41.1	20.5	0.2	0.1	0.1	0.1	-
7	100	40.7	38.1	20.9	-	0.3	-	-	-
8	100	39.9	41.3	18.6	0.3	-	-	-	-
9	100	48.3	35.2	16.4	-	-	-	-	-
10	100	47.7	36.9	14.9	0.1	0.3	-	-	-
11	100	45.0	38.7	16.1	-	0.2	-	-	-
12	100	44.0	40.0	15.7	0.1	0.1	-	-	-
13	100	45.8	37.0	17.2	-	-	-	-	-
14	100	48.0	36.0	16.0	-	-	-	-	-
15	100	45.7	34.6	19.7	-	-	-	-	-

(5) 周産期死亡

周産期死亡とは、妊娠満22週(平成6年までは満28週)以後の後期死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたものをいい、周産期死亡率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千に対する死亡率で表され(平成6年までは出生千対)、母子衛生上の重要な指標となっている。

表14は年次別周産期死亡率と周産期死亡の構成割合であるが、周産期死亡率は平成7年以降おおむね横ばいで推移している。

また、保健所別の周産期死亡率の推移は表15のとおりである。

表14 周産期死亡率及び周産期死亡構成割合年次推移

	周産期死亡率	周産期死亡構成割合	
		後期死産	早期新生児死亡
昭和55年	11.8	70.3	29.7
60	8.7	74.4	25.6
平成2年	5.6	71.2	28.8
7	6.7	85.0	15.0
8	7.0	82.5	17.5
9	6.9	81.6	18.4
10	6.7	83.6	16.4
11	6.6	84.5	15.5
12	7.0	82.5	17.5
13	5.8	79.4	20.6
14	6.1	81.3	18.7
15	6.1	82.0	18.0

表15 保健所別周産期死亡率年次推移

保健所	55年	60年	2年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
総 数	11.8	8.7	5.6	6.7	7.0	6.9	6.7	6.6	7.0	5.8	6.1	6.1
千葉市	10.1	9.4	4.4	6.8	7.4	7.6	6.9	5.6	6.6	5.2	6.7	5.0
船橋市												7.9
市 川	13.0	5.8	4.8	5.4	5.0	5.5	9.0	6.7	5.5	4.5	5.3	4.7
松 戸	9.4	6.4	6.5	8.1	6.6	5.7	5.7	6.5	7.2	5.9	6.5	6.0
野 田	14.1	7.4	4.2	8.7	7.7	5.6	4.9	12.6	9.3	8.8	7.9	5.3
佐 倉	14.5	8.9	7.1	5.4	5.8	5.5	6.8	8.1	7.5	4.0	4.7	6.7
佐 原	13.3	14.6	7.0	8.8	4.5	・	・	・	・	・	・	・
銚 子	16.1	13.3	4.2	4.6	11.2	・	・	・	・	・	・	・
八日市場	17.1	8.6	6.8	9.9	7.2	・	・	・	・	・	・	・
東 金	16.3	10.4	3.4	7.3	6.6	・	・	・	・	・	・	・
茂 原	15.2	8.5	3.2	8.1	5.8	4.5	7.7	8.7	4.8	9.0	8.8	6.2
勝 浦	16.1	16.4	14.8	6.7	11.0	10.4	3.4	15.0	13.5	5.6	4.0	6.3
市 原	13.6	11.7	3.4	11.5	10.1	4.80	6.9	9.1	8.3	7.2	8.7	6.2
木更津	11.3	9.5	6.1	7.0	8.0	8.9	6.5	6.4	8.0	5.0	3.6	4.1
館 山	12.8	3.7	5.6	3.6	9.5	・	・	・	・	・	・	・
鴨 川	23.1	16.8	3.0	9.6	3.5	・	・	・	・	・	・	・
船 橋	10.2	7.3	5.6	5.3	6.1	7.6	5.8	4.1	6.6	5.1	6.3	・
松 尾	20.6	10.2	9.4	8.1	4.0	・	・	・	・	・	・	・
柏	8.9	8.1	5.4	6.1	8.2	8.6	5.3	6.7	6.1	6.5	6.2	6.3
習志野	11.4	11.1	7.8	6.7	7.3	5.2	8.1	7.1	8.2	5.7	4.1	6.1
香 取	・	・	・	・	・	11.1	7.8	8.0	4.9	6.8	6.2	6.3
海 匝	・	・	・	・	・	8.4	8.4	5.3	10.6	10.7	8.9	5.7
山 武	・	・	・	・	・	8.9	5.1	6.1	7.3	7.9	8.7	10.5
安 房	・	・	・	・	・	2.8	6.6	2.9	5.9	6.2	6.5	8.4
全 国	20.2	15.4	11.1	7.0	6.7	6.4	6.2	6.0	5.8	5.5	5.5	5.3

(6) 婚姻と離婚

婚姻率は昭和 60 年代前半から微増傾向にあったが、ここ数年増減を繰り返しており平成 15 年は 6.2 となった。

また、平成 15 年の平均初婚年齢（届時の年齢）は表 17 のとおり、夫は 29.8 歳、妻は 27.8 歳である。

一方、離婚率は昭和 58 年の 1.45 をピークに一時減少したが、平成元年から再び増加に転じ平成 14 年は 2.30 で過去最高であった。

図 7 は離婚した夫婦の同居期間を示したものであり、15 年以上同居した夫婦の離婚は 24.2% となっている。

また、離婚件数のうち、親権を行う子を持つ夫婦の割合は、54.4% である。

表16 婚姻率及び離婚率の年次推移(人口千対)

	婚 姻 率	離 婚 率
昭和45年	10.7	0.78
50	8.9	0.95
55	6.7	1.15
60	5.9	1.33
平成 2年	6.1	1.28
5	6.8	1.54
6	6.6	1.61
7	6.8	1.68
8	6.7	1.71
9	6.4	1.87
10	6.5	1.98
11	6.4	2.07
12	6.7	2.16
13	6.7	2.24
14	6.4	2.30
15	6.2	2.24

表17 平均初婚年齢年次推移

	夫の年齢	妻の年齢
昭和40年	27.4	24.6
45	27.1	24.4
50	27.3	24.9
55	28.1	25.5
60	28.5	25.7
平成2年	28.6	26.0
7	28.7	26.5
8	28.8	26.6
9	28.9	26.7
10	28.9	26.9
11	29.0	27.0
12	29.2	27.2
13	29.4	27.4
14	29.5	27.5
15	29.8	27.8

図7. 離婚件数の同居期間別割合

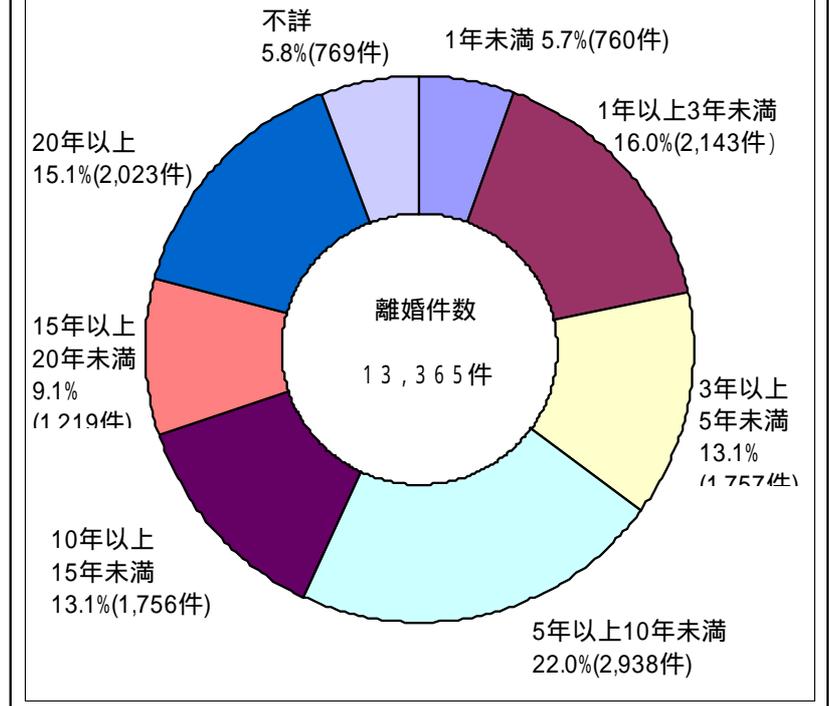


表18 夫婦が親権を行わなければならない子の数別離婚件数

離婚の種類	夫婦が親権を行わなければならない子の数										計
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	
協議	5,731	3,099	2,422	663	114	31	2	2	1	0	12,065
調停	326	447	318	90	10	0	0	0	0	0	1,191
審判	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
判決	39	32	22	8	5	0	0	0	0	0	106
計	6,097	3,580	2,762	761	129	31	2	2	1	0	13,365
構成割合	45.6	26.8	20.7	5.7	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	-	

※構成割合は、四捨五入により100%にならない。